

1 基本情報

施策名	3 - 3 拠点を結ぶまちづくり					戦略名	拠点創造プロジェクト		
担当	主担当部	都市建設部	主担当課	都市計画課					
	部長名	鈴木 和宏	関係課	未来創造戦略室	道路課				

2 取組目標(Plan)

取組目標	●道路ネットワークを活かして、沿道への企業進出を誘導します。 ●北千葉道路の整備の進捗状況を踏まえて、インターチェンジ周辺への産業機能の創出を進めます。 ●都市拠点と各地域の拠点をネットワーク化し、まち全体の拠点間を移動しやすいまちづくりを進めます。
求める成果	移動しやすい環境が整い、市民の利便性が向上するとともに、昼間人口が増加する。 ⇒ヒト・モノなど様々な交流が活発なまちになる。

3 令和7年(2025年)度取組状況(Do①)

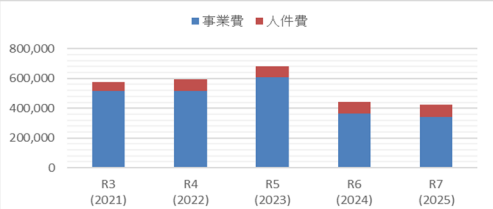
取組1 幹線道路沿道などにおける開発誘導						
取組方針	羽田空港と成田空港の中間地点にあり、国道16号が通過しているという白井市の立地特性を活かし、企業などの進出を誘導します。また、構想道路の計画化を進めるとともに、北千葉道路のインターチェンジ周辺の活用方策を検討します。					
求める取組成果	産業を支える道路ネットワークが構築され、さらに企業の進出が進む。					
取組内容	・道路ネットワークについて、前年度に引き続き、庁内各課が保有する資料等を基に地形や地質的条件、用地取得上のリスクなどを可能な限り整理・精査するとともに、樹林や地下水涵養の状況など様々な視点から想定ルートを検討した。 ・第6次総合計画実施計画や都市マスタープランにおいて、構想道路の位置づけを整理した。 ・令和5年度に富ヶ谷地区まちづくり協議会からIC周辺検討地区における地区計画の提案について、令和6年度に都市計画審議会からおおむね妥当との答申を得たことから、市として令和6年度から令和7年度にかけて都市計画手続きを進めた。 ・富塚地区において、物流施設の立地に関する地区計画の提案を受け、都市計画審議会でおおむね妥当との答申を得たことから、市として令和6年度から令和7年度にかけて現在進行形で都市計画手続きを進めているところである。 ・都市マスタープランの改定にあたり、幹線道路沿道の活性化を実現できるよう検討を重ねた。 ・企業誘致を推進するため、企業立地奨励金の運用のほか、白井市企業誘致基本方針の推進、改定、事業者等との意見交換、地区まちづくり協議会の活動支援（法目上長殿地区、七次・白井木戸地区、木地区、二重川周辺地区、富ヶ沢地区、根地区、谷田地区）を行った。また、富士南園広場プロジェクトチームにおいて、富士南園広場の活用について検討した。					
構成事業		事業名	評価	事業No	事業名	評価
	1	道路ネットワークづくり事業	改善して継続	2	幹線道路沿道活性化事業	改善して継続
	3	企業誘致推進事業【再掲】	改善して継続			

取組2 都市拠点と各地域を結ぶ道路ネットワークの構築						
取組方針	市内を便利に移動できるよう道路のネットワーク化を進めるとともに、安全に移動できるよう幹線道路などの維持修繕を進めます。					
求める取組成果	安全に便利に移動できる道路ネットワークが整う。					
取組内容	・舗装修繕工事 4路線 延長 L=0.84km（①市道00-007号線 延長 L=0.24km、②市道00-104号線 延長 L=0.14km、③市道00-001号線 延長 L=0.14km、④市道12-015号線 延長 L=0.32km）を行った。 ・道路ネットワークについて、前年度に引き続き、庁内各課が保有する資料等を基に地形や地質的条件、用地取得上のリスクなどを可能な限り整理・精査するとともに、樹林や地下水涵養の状況など様々な視点から想定ルートを検討した。					
構成事業		事業名	評価	事業No	事業名	評価
	4	市道維持修繕事業	現状のまま継続	5	道路ネットワークづくり事業【再掲】	改善して継続

取組3 利便性の良い公共交通ネットワークの確保						
取組方針	拠点間を移動しやすいよう、北総線運賃対策をはじめ、バス・鉄道・タクシーなど公共交通ネットワークの利便性の向上を進めます。					
求める取組成果	交通不便により生活に困難を抱える人が減る。					
取組内容	・北総線沿線地域活性化協議会において「沿線活性化トレイン」を運行して沿線地域の魅力を発信し、沿線地域の活性化を図った。 ・北総線沿線地域活性化協議会において沿線市の事業・イベント等の後援・周知活動を実施した。 ・成田空港活用協議会・千葉県JR線複線化等促進期成同盟等への参加により、広域での連携・協力体制の確保に努めた。 ・令和3年8月に改正した新ルート及びダイヤによるコミュニティバスの運行を継続した（委託先：京成バス千葉セントラル、京成バス千葉ウエスト）【参考】利用者負担150円/回 ・令和6年2月に導入したコミュニティバスロケーションシステムの本格的な運用を開始するとともに利用者への周知を図った。					
構成事業		事業名	評価	事業No	事業名	評価
	6	鉄道交通推進事業	改善して継続	7	バス交通推進事業	改善して継続

4 施策展開の状況(Do②)

改善した取組	・都市マスタープランの改定に伴い、他課と連携を図りながら「構想道路沿道検討地区」という、沿道の特性を活かす新たな産業を誘致するための地区を設定した。 ・基礎調査の結果等を踏まえ、交通機関の役割分担、サービス水準の見直し等を検討し、令和8～12年度を期間とする白井市地域公共交通計画を策定した。
他分野他施策との連携	・北総線沿線活性化トレインでは、戦略1－1の取組の1つである「地域資源を活用した魅力ある暮らしの促進」と連携し、子育て環境や自然、文化施設など様々な市の魅力をPRした。 ・企業誘致推進事業は、戦略1－2の取組目標の1つである若い世代の就業機会の拡大にもつながっているものとして取り組んでいる。
市民等との情報共有、参加・協働	・法目上長殿地区や七次・白井木戸地区、谷田地区の地区まちづくり協議会の活動支援など、市民等と情報共有を図りながら、市民の主體的なまちづくり活動への必要な支援を行っている。

5 施策推進コスト(Do③)						(千円、%)
年度 項目	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	
事業費	516,878	517,777	609,010	364,655	339,418	
人件費	57,165	75,164	72,862	76,146	85,061	
合計	574,043	592,941	681,872	440,801	424,479	
プロジェクト 内割合	78.1%	71.5%	74.4%	67.0%	51.6%	

6 1次評価 (Check① & Action①)				(目標値設定の考え方は白井市第5次総合計画後期基本計画書の84頁を参照ください)									
定量的 評価	指標名			単位	基準値/基準年度		目標値		実績値				
						R7 (2025)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)		
	取組 指標	進出(増設)企業数(累計)			社	-	-	10	2	2	11	11	11
		公共交通による人口カバー率			%	89.0	H29 (2017)	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5
成果 指標	滞在人口率(平日・日中)			倍	0.86	R1 (2019)	0.88	0.90	0.88	0.85	0.88	0.89	
定性的 評価	求める成果である「移動しやすい環境」を整え、「市民の利便性」が向上するためには、拠点を結ぶ道路ネットワークの形成と、移動を支える公共交通の充実の両面が必要である。 道路ネットワークの形成は、構想道路の計画化の検討や市道修繕など、安全で利便性の高い道路ネットワークの向上に向けた長期的な取組が求められるが、現在、アクセス道路の整備に必要な取組を順次進めている。 公共交通の充実については、北総線の沿線活性化に向けた取組の実施や、コミュニティバスの利便性の向上のための取組の決定など、改善を図りながら施策の実現に向けて着実に進んでいる。								進捗 状況	☐ 順調 ☒ おおむね順調 ☐ やや遅れている ☐ 遅れている			
遅れている取組の原因	内部要因				外部要因								
施策を取り巻く環境の変化	地域の交通の担い手不足、高齢化の進展などに伴う交通弱者の増加も見込まれる中、人口減少により地域の都市機能やコミュニティ機能の低下が危惧される。 国の時間外労働の上限規制や労働基準見直しにより、運転手不足によるバスなどの運行へ影響が全国的に生じ始めている。												
課題	喫緊の課題 拠点を結ぶまちづくりの課題は、基本的に短期間で解決できる性質のものではなく、中長期的に取り組むものである。 また、公共交通について、特に路線バスやタクシーの維持は、従前から全国的な課題であることに加え、2024年問題による運転手不足などの影響も受けており、対応が求められている。 バス・鉄道・道路といったネットワークとその手段について、それぞれ個別だけでなく面で捉えたネットワークづくりも求められている。					中長期的な課題 構想道路の整備や市道の維持修繕など、ハード面の取組には多額の費用や多くの工程が必要である。また、幹線道路沿道の開発誘導などは北千葉道路の整備の進捗状況なども考慮しながら取組を進める必要がある。 公共交通に関しては、人口減少により公共交通全体の利用者が減少する一方で、高齢化の進展に伴い、公共交通のニーズや利用方法の変化も考えられることから、各公共交通機関の役割に基づき、相互に補完しながら維持していく必要がある。 バス・鉄道・道路といったネットワークとその手段について、それぞれ個別だけでなく面で捉えたネットワークづくりも求められている。							
施策の方向性(改善策)	短期的な方向性 安全で円滑な道路交通環境を確保するため、市道修繕事業を計画的に進める。 公共交通については、「地域公共交通計画」に基づき、交通事業者との協議や公共交通の利用促進など、できるところから順次取り組む。 さらに、路線バスやタクシーの維持については、利便性の向上も含め、他自治体の先進事例や国の施策等の収集に努め、取組の参考とする。 なお、都市マスタープランにおいては、バス・鉄道・道路といったネットワークの利便性と整備、維持管理を図る方針とした。					中長期的な方向性 構想道路の整備や市道の修繕については、効果的な手法を検討しつつ計画的に進めている。また、安全な道路ネットワークの強化を図るとともに、北千葉道路の整備の進捗状況の注視、幹線道路沿道の開発誘導に向けた取組を進める。 また、公共交通については、「地域公共交通計画」に基づき、持続可能で利便性の高い公共交通体系を確立するため、地域公共交通活性化協議会の意見や、各交通事業者との協議を踏まえ、鉄道沿線活性化と連携しながら取組を進めていく。 少子高齢化の進展や社会環境の変化も踏まえながら、バス・鉄道・道路といったネットワークとその手段について「線的」「面的」の両方の観点から具体的な取組を検討する。							
進め方	☐ 行政の役割を拡大 ☐ 現在の行政と市民の役割分担・協働を維持 ☒ 市民の役割・協働を拡大 この5年間で、幹線道路沿道などにおける開発誘導を実現するため、IC周辺検討地区や公益的施設誘導地区において、都市計画手続きを進めることができた。また、新たに策定した第6次総合計画や改定した都市マスタープランにおいて、構想道路の位置付けを整理した。 都市拠点と各地域を結ぶ道路ネットワークに関しては、着実に維持修繕を進めた。 利便性の良い公共交通ネットワークの確保に関しては、適時ルート及びダイヤ見直しを行うとともに、コミュニティバスローテーションシステムの本格的な運用を開始し、利便性を図った。												

7 2次評価 (Check②&Action②)						白井市行政評価委員会による評価
道路ネットワーク構築と沿道への企業誘致については、長期間の取り組みが必要であり、この5年間ににおいては、着実に事業を進めてきた結果、今後沿線開発が期待できるエリアも生じているなど、これまでの取り組みが実を結びつつあると評価している。 一方、公共交通については、全国的な運転手不足の中、白井市市内においても例外ではなく、新たな考え方のもと市内公共機関の計画したことは評価できる。						

8 3次評価 (Check③&Action③)						総合計画審議会による評価

9 3次評価の改善意見等への対応					